

スマートオブジェクト

スマートオブジェクトの特徴

ファイルを配置すると自動的にスマートオブジェクトになる
配置方法は「埋め込み配置」と「リンクで配置」の2種類

①データを劣化させることなく変形が行える

様々なデバイスにむけてデータの変形や修正を行える

②デザイン内の全てのコピーが自動更新

同一デザインの一括修正可能

スマートオブジェクトの配置

埋め込み配置

01.psd



縮小して配置



01.psd内に元サイズデータが
01.psd内に取り込まれる

パンフレットなど別の媒体でも使っている画像を使用している場合
元画像への影響を考えずに気軽に使える
ランディングページなどの単発的なデザイン

スマートオブジェクトの配置

リンクで配置

01.psd



02.jpg



データを複数のデザイナーが共有する場合

※共通パーツを「リンクで配置」で使うようにルール付けしておく

※「リンクを配置」で配置したデータを編集・保存すると
リンク先データが上書きされるため元に戻すことができない
リンク先データは定期的にバックアップを取っておく

埋め込み配置・リンクで配置の特徴

埋め込み配置

- 元データをPSD内に埋め込むためPSDファイルのみでデータ受け渡し可能
- PSDファイルの容量が大きい

リンクで配置

- 外部ファイルの元データを参照するため複数人で画像データを共有しながら作業できる
- PSDファイルに加えて外部ファイル管理の手間が発生
- PSDファイルの容量は小さい

埋め込み配置・リンクで配置の切替

「属性パネル」



リンク配置から埋め込み配置に切り替え

リンクされていた外部ファイルを
PSDファイル内に取り込む

埋め込み配置からリンク配置に切り替え

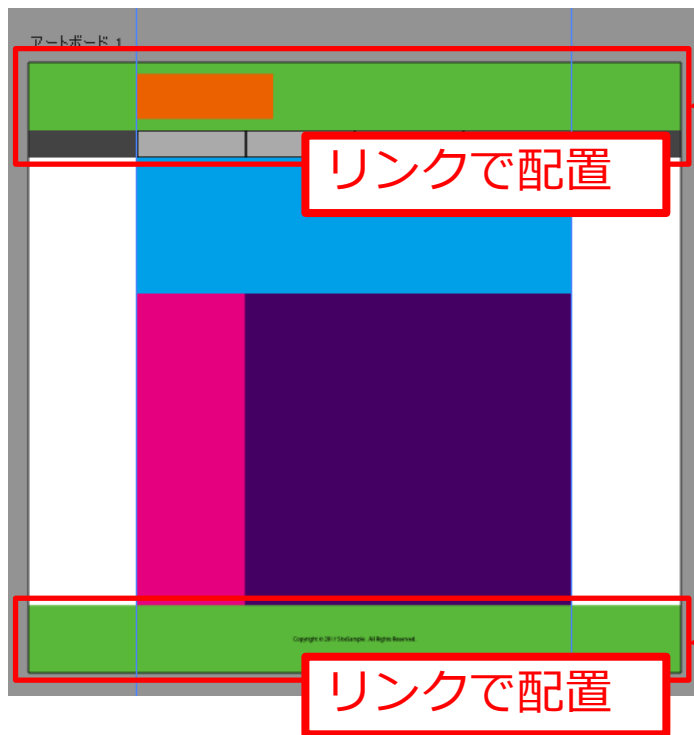
PSDファイル内に取り込んでいたデータ
を外部ファイルとして書き出す為
ファイルの保存先を指定する画面が表示
される

リンクで配置の活用法

リンクで配置はPSDファイルも指定可能

ヘッダー、ナビ、フッターなどの共通パーツを別PSDとして作成
それぞれを「リンクで配置」でスマートオブジェクトとして配置

トップページ.psd



ヘッダパーツ.psd



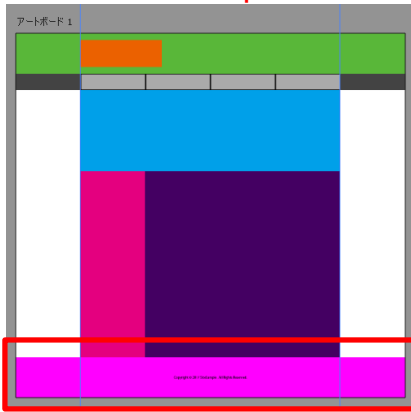
フッタパーツ.psd



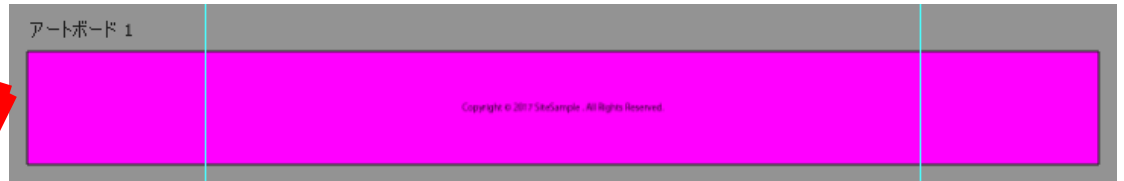
リンクで配置の活用法

共通パーツをリンクしたPSDファイルで作業を行うことで
配置した共通パーツの変更がすべてのPSDで更新される

トップページ.psd



フッタパーツ.psdを変更・保存



配下ページ.psd

